

肺移植希望者（レシピエント）選択基準（案）

1. 適合条件

(1) ABO式血液型

ABO式血液型の一致 (identical) だけでなく、適合 (compatible) の待機者も候補者として考慮する。

(2) 肺の大きさ

予測VCD^{注1)} / 予測VCR^{注2)} × 100 の値 (%) で判断する。

- 1) 片肺移植の場合 70～130%
- 2) 両肺移植の場合 70～130%

注1) 予測VCD：臓器提供者（ドナー）の予測肺活量

注2) 予測VCR：移植希望者（レシピエント）の予測肺活量

予測肺活量の計算式

(男性) 予測肺活量 = (27.63 - 0.112 × 年齢) × 身長 (cm)

(女性) 予測肺活量 = (21.78 - 0.101 × 年齢) × 身長 (cm)

(3) 前感作抗体

ダイレクト・クロスマッチを実施し、陰性であることを確認する。

パネルテストが陰性の場合、ダイレクト・クロスマッチは省略することができる。

(4) CMV抗体

CMV抗体陰性の移植希望者（レシピエント）に対しては、CMV抗体陰性の臓器提供者（ドナー）が望ましい。

(5) HLA型

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

(6) 虚血許容時間

臓器提供者（ドナー）の肺を摘出してから8時間以内に血流再開することが望ましい。

2. 優先順位

適合条件に合致する移植希望者（レシピエント）が複数存在する場合には、優先順位は、以下の順に勘案して決定する。

(1) 優先すべき親族

当該親族を優先する。

(2) ABO式血液型

ABO式血液型の一致 (identical) する者を適合 (compatible) する者より優先する。

(3) 待機期間

(2) の条件が同一の移植希望者 (レシピエント) が複数存在する場合は、原則として、待機期間の長い患者を優先する。

(4) 術式による優先順位

術式は、片肺移植、両肺移植の2種類とし、第1術式、第2術式の2つまで登録可能とする。

術式による優先順位は次のとおりとする。

1) 臓器提供者 (ドナー) の両肺が利用できる場合であり、第1優先順位の選択を行った結果、

- ① 第1術式に係る両肺移植希望者 (レシピエント) が、第1優先順位となれば、当該両肺移植希望者 (レシピエント) を選択する。
- ② 第1術式に係る片肺移植希望者 (レシピエント) が第1優先順位となれば、第1術式に係る片肺移植希望者 (レシピエント) で次の順位に位置する者とそれを分けあうこととする。次順位に位置する第1術式に係る片肺移植希望者 (レシピエント) が選択されない場合には、第2術式に係る片肺移植希望者 (レシピエント) の中で優先順位の高い者と分け合うこととする。
- ③ 第1術式に係る片肺移植希望者 (レシピエント) が第1優先順位となり、第1術式、第2術式を考慮しても片肺移植希望者 (レシピエント) が1名のみである場合、

○当該片肺移植希望者 (レシピエント) が第2術式として両肺移植を希望していれば、当該移植希望者 (レシピエント) を選択し (注1)、

○当該片肺移植希望者 (レシピエント) が第2術式として両肺移植を希望していなければ、両肺移植希望者 (レシピエント) の中で優先順位の高い者を選択する (注2)。

- 2) 臓器提供者（ドナー）の片肺のみが利用できる場合には、第1術式に係る片肺移植希望者（レシピエント）の中から優先順位の高い者を選択する。第1術式に係る片肺移植希望者（レシピエント）が選択されない場合には、第2術式に係る片肺移植希望者（レシピエント）の中から優先順位の高い者を選択する。
- 3) 1)、2)の結果、ABO式血液型が一致する移植希望者（レシピエント）が選択されない場合、虚血許容時間内にあり、ABO式血液型が適合するものについて1)、2)と同様の手順により移植希望者（レシピエント）を選択する。

3. その他

基礎疾患、重症度などによる医学的緊急度は、将来考慮されるべきである。
また、この基準は実績を踏まえて見直しを行う必要がある。

- (注1) 当該移植希望者（レシピエント）は必ずしも両肺移植を受ける必要はない。
- (注2) 2(4)1)③の2項の場合に限り、待機期間よりも術式を優先し、待機期間の長い第1術式に係る片肺移植希望者（レシピエント）よりも第1術式に係る両肺移植希望者（レシピエント）が優先される。